

# 事業評価シート

番号 1740055 1

## 【1.基本情報】

事業名	加納・茶所統合駅周辺土地地区画整理事業調査業務				
担当部名	都市建設部	担当課名	駅周辺事業推進課		
総合計画政策	便利な交通環境づくりを推進します		政策コード	2 - 7 - 0 - 0	
実施方法	委託(民間)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成 12 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	名鉄名古屋本線連続立体交差事業	

## 【2.事業概要】

事業の目的	加納・茶所統合駅周辺土地地区画整理事業の事業化の推進に向けた業務				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本調査</li> <li>・区画整理事業調査</li> <li>・区画整理促進調査</li> </ul>				
事業の対象	何を	都市計画道路や駅前広場、特殊街路、区画道路の整備を行い、計画的かつ良好な市街地を一体的に形成します。			
	誰に (対象者・対象者数)	事業区域内の土地・建物の権利者や住民及び駅前広場、都市計画道路の利用者			
	どのくらい (具体的 数値で)	交通環境の改善、統合駅への交通アクセス向上、地域の防災性向上により、宅地の利用増進を図ります。			
平成29年度 (実施内容)	区画整理促進調査(市民向け事業内容説明資料や高架下土地利用検討資料の作成)の実施				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	7,670	260	7,904	260	8,242	260
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>7,670</b>	<b>260</b>	<b>7,904</b>	<b>260</b>	<b>8,242</b>	<b>260</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		9,558	3,240	2,592
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	調査業務委託	9,558	3,240	2,592
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>9,558</b>	<b>3,240</b>	<b>2,592</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	17,228	11,144	10,834

## 【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金	2,800	1,000	700
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>2,800</b>	<b>1,000</b>	<b>700</b>

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	14,428	10,144	10,134

**【6.コストバランス】**

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	土地建物権利者、住民、公共施設利用者	土地建物権利者、住民、公共施設利用者	土地建物権利者、住民、公共施設利用者
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	—	—	—

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	事業進捗率		単位
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値			
実績値	1.91%	1.99%	2.18%

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	宅地の増進率		割合
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値			
実績値			

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	名鉄名古屋本線連続立体交差事業の推進とともに、都市計画道路・駅前広場の整備による交通結節機能の強化や、密集市街地・狭小道路の解消による防災性向上など、安全で安心なまちづくりに寄与する事業である。  岐阜市都市計画マスタープラン、岐阜市立地適正化計画、岐阜市地域防災計画に位置づけられた事業であり、市にとって有益である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	土地区画整理事業の施行により、宅地価格に係る評価の増進率が5%見込まれている。  都市計画道路や駅前広場の整備に加え、密集市街地の解消のため、地区内の公共施設や宅地を適正に配置し、まちづくりを行うためには、土地区画整理事業の換地による手法が適している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	調査業務を進める中で、国土交通省へ事業の実施計画の事前相談を行い、平成29年11月に、内容について了承する旨、回答を得た。また、岐阜県へは同年3月に事業の下協議を行った。事業化に向け、その手続きを進捗させてきている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	名鉄名古屋本線連続立体交差事業を推進するとともに、統合駅を中心とした都市計画道路や駅前広場の整備等による広域的な交通ネットワークの向上により、利用者となる多くの市民が受益者となる。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	人口減少や高齢化の進展が見込まれる中、名鉄名古屋本線連続立体交差事業を推進するとともに、交通結節機能の強化を図り、公共交通を利用したまちづくりを実現し、現状維持とすべきである。 今後行う、調査段階における用地関連測量の立会等については、業務の目的に応じて立会ポイントの選別を行い、必要箇所を限定するなど、立会方法、手順の改善を行い、作業の効率化を図るとともに、地権者に対する負担を低減するように努める。

# 事業評価シート

番号 1740055 2

## 【1.基本情報】

事業名	名鉄名古屋本線・各務原線鉄道立体化促進期成同盟会 負担金				
担当部署	都市建設部	担当課名	駅周辺事業推進課		
総合計画政策	便利な交通環境づくりを推進します		政策コード	2 - 7 - 0 - 0	
実施方法	その他	補助の種類※	その他負担金	実施主体	岐阜市
実施期間	平成4 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	名鉄名古屋本線連続立体交差事業	

## 【2.事業概要】

事業の目的	名鉄名古屋本線・各務原線連続立体交差事業の早期実現	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高架事業推進のための関係機関に対する要望活動</li> <li>・高架事業推進に関する啓発、普及、及び広報活動</li> <li>・高架事業推進のための関係機関との連絡調整</li> </ul>	
事業の対象	何を	事業推進のための要望活動や啓発、普及、広報活動等
	誰に (対象者・対象者数)	要望活動は県選出国會議員や国土交通省等の関係機関、啓発、普及、広報活動は市民に対して実施
	どのくらい (具体的 数値で)	名鉄高架事業名古屋本線・各務原線鉄道立体化促進期成同盟会の負担金として1,000千円を負担 定期総会の開催、国土交通省(本省、中部地方整備局)、財務省、県選出国會議員への要望活動
平成29年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道交通省本省、財務省、県選出国會議員への要望活動</li> <li>・中部地方整備局への要望活動</li> <li>・定期総会の開催、高架事業の啓発</li> </ul>	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	1,770	60	1,824	60	1,902	60
嘱託職員	0		0		0	0
アルバイト	132	30	132	30	138	30
<b>計(A)</b>	<b>1,902</b>	<b>90</b>	<b>1,956</b>	<b>90</b>	<b>2,040</b>	<b>90</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		1,000	1,000	1,000
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	負担金	1,000	1,000	1,000
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>1,000</b>	<b>1,000</b>	<b>1,000</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	2,902	2,956	3,040

## 【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	2,902	2,956	3,040

**【6.コストバランス】**

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	踏切通行者、駅利用者(人/日)	踏切通行者、駅利用者(人/日)	踏切通行者、駅利用者(人/日)
受益者数	47,000	47,000	47,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	62	63	65

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	要望活動 回数	単位	回
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	2	2	2
実績値	2	2	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	国庫補助金内示額	単位	円
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	100,000,000	130,000,000	50,000,000
実績値	100,000,000	130,000,000	74,000,000

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	名鉄線による踏切事故や慢性的な交通渋滞、分断された市街地などの問題解消を図るため、本同盟会の活動により高架化の早期実現を目指す必要がある。  市として必要な名鉄線の高架化の早期実現のため、国等への要望活動等を行うものであり、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	鉄道高架事業を所管する国や国会議員へ、直接地域の実情を伝え、国庫補助の確保等の要望活動を行うことは、早期の事業実現に資することから、効率性は高い。  地域代表者も同盟会の役員を構成しており、事業推進に対する地元の合意形成に資する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	これまでの国や県、国会議員への要望活動により、都市計画手続きの支援や、必要となる国庫補助の確保が成され、早期事業化に向けて着実に事業進捗が図られている。 平成29年度には新たに創設された個別補助制度に採択されている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	名鉄高架事業は、踏切渋滞や事故の解消、分断された市街地の一体的な発展などに寄与する事業であり、名鉄線の交差道路通行者や鉄道利用者、鉄道沿線の市民など、受益者は市内広域に及ぶ。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	名鉄高架事業は、都市交通の円滑化や分断された市街地の一体的な発展に寄与するとともに、関連する土地区画整理事業や都市計画道路の整備、河川改修とあわせて、誰もが歩いて暮らせる安全、安心なまちづくりを推進するものであり、現状維持とすべきである。 今後の要望活動については、自治会関係者の出席を積極的に求め、国や国会議員との意見交換では、首長のみならず沿線住民からの声が確実に届くよう発言内容の調整や役割分担を事前に行うなど、意見交換会のスタイルを改善していく。また、PR物品や看板による啓発活動の実施など、事業推進のための取り組みを進める。

# 事業評価シート

番号 1740055 3

## 【1.基本情報】

事業名	歩行者用デッキ整備				
担当部名	都市建設部	担当課名	駅周辺事業推進課		
総合計画政策	中心市街地を活性化します		政策コード	3 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	13 年度～	44 年度	根拠法令 関連計画※	都市再生総合整備事業(歩行者用デッキ整備)	

## 【2.事業概要】

事業の目的	JR岐阜駅と名鉄岐阜駅の連携強化や、駅と周辺街区の一体性を目指し、安全で快適な歩行空間の確保と交通機関の乗継利便性の強化(交通結節機能強化)を図るため、歩行者用デッキの整備を行う。	
事業の内容	駅前広場区域外の歩行者用デッキの整備を行う。	
事業の対象	何を	歩行者用デッキを
	誰に (対象者・対象者数)	駅周辺利用者6万3千人/日
	どのくらい (具体的 数値で)	歩行者用デッキ延長L=1,035m
平成29年度 (実施内容)	・駅東地区歩行者用デッキ整備 L=59m	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	19,175	650	19,760	650	20,605	650
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>19,175</b>	<b>650</b>	<b>19,760</b>	<b>650</b>	<b>20,605</b>	<b>650</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	工事		343,970	465,211
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>0</b>	<b>343,970</b>	<b>465,211</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	19,175	363,730	485,816

## 【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金		149,260	208,140
県支出金			
市債		134,100	187,300
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>283,360</b>	<b>395,440</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	19,175	80,370	90,376

**【6.コストバランス】**

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	駅前広場の利用者	駅前広場の利用者	駅前広場の利用者
受益者数(人)	63,000	63,000	63,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	304	1,276	1,435

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	事業進捗	単位	%
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	63	63	68
実績値	63	63	68

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	歩行者通行量	単位	人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値			
実績値			

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	駅周辺のにぎわい創出のため、市街地再開発事業等と合わせて歩行者用デッキの整備を進め、周辺街区の回遊性向上を図る必要がある。  岐阜駅北口周辺整備による市街地の再整備を図るためには、岐阜市が施行する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	駅周辺の再開発事業と連携し、回遊性を高めることでにぎわい創出を図る。  公共施設のハード整備であり、都市再生総合整備事業としての実施が適している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	駅周辺施設乗り継ぎ利用者に加え、周辺住民の利用もあるため、その利便性の向上が期待できる。また、魅力的なイベント空間を整備することにより、にぎわい創出を目的としたイベントを誘引し、市街地活性化を図る。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	1日6万3千人の駅周辺施設乗り継ぎ利用者に加え、周辺住民の利用もあるため適正である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	岐阜駅周辺地区は県都岐阜市の玄関口であり、鉄道、バス等の交通結節機能が集中した地区でもあることに加え、人の集まるにぎわい空間、環境空間の創出が求められている。市民から駅前広場、駅周辺地区の再生が望まれており、早急に商業地として魅力あるまちづくりを図るための事業を推進する必要がある。 今後については、将来の維持管理や施設の長寿命化に配慮し、点検口の仕様(開口寸法)の見直し、及び増設を検討するとともに、配管等の施設を柵カバーの隠ぺい部とならないようにデザイン性に配慮しながら配置するなど、設計上の改善を行っていく。